

2023年10月30日

原三信病院 で

成人T細胞白血病・リンパ腫に対して同種造血幹細胞移植の治療を受けた
患者さんへ

(生命科学・医学系研究に関する情報)

当院では、以下の生命科学・医学系研究を実施しております。生命科学・医学系研究とは、従来の臨床研究、疫学研究、ヒトゲノム・遺伝子解析研究を含み、人を対象として国民の健康の保持増進、患者さんの傷病からの回復、生活の質の向上に資する知識を得る等を目的とする研究のことです。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

成人T細胞白血病(ATL)に対する同種移植後の予後に移植前モガムリズマブ投与が与える影響に関する研究

【研究の目的】

ATLは、通常化学療法のみでは極めて予後不良であり、近年、移植可能年齢の患者に対して同種移植が施行されています。しかし非寛解例への移植の予後は依然厳しいです。本邦においてはATLに対して世界に先んじて2012年からモガムリズマブが保険適応となっていますが、2013年までの症例でモガムリズマブの移植前使用で重症移植片対宿主病(GVHD)が増加したことが報告されているため、移植前の使用には注意が必要です。また、この報告時には最終のモガムリズマブ投与から移植までの期間が50日未満の例で有意に非再発

死亡率が高く、その結果全生存率も劣るということから実臨床においては50日は間隔を空ける例が増えていると予想されます。しかし、50日以上経過した場合にもやはり依然としてGVHD増加のリスクがある可能性はありますが、前回の解析の段階では移植前モガムリズマブ使用症例数が限られており解析は困難でした。上述の通り現在は50日以上間隔を空けている症例が多いと予想され、50日以上間隔を空けた例での解析をより詳細に行えるものと期待できます。このように移植前モガムリズマブ使用に関しての情報が新たに得られることで、実臨床における移植前のモガムリズマブ使用を検討する際の参考となることが期待できます。

【研究の方法】

移植学会のデータベースに含まれる情報に加えて二次調査を行った上で移植前のモガムリズマブ投与に関連する情報を調査した上で、解析を行います。この研究のために新たに患者さんに追加で負担をお願いして行うものではありません。

【研究期間】

研究実施許可日 ～ 2026年12月31日

【対象となる患者さん】

2016年1月1日から2019年12月31日までに成人T細胞白血病リンパ腫と診断され、同種造血幹細胞移植の治療を受けた患者さんを対象にしています。

【試料や診療録（カルテ）から利用する情報】

個人情報公表されることはいかなる形でもありません。後方視的に過去の診療録を調査する際には、個人情報が特定されないやり方で情報を収集します。

個人情報が特定されない情報を研究責任者機関にて管理し、統計学的解析を

行います。

【情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

大阪国際がんセンター 総長 松浦 成昭

【本研究全体の研究代表者】

大阪国際がんセンター 血液内科 藤 重夫

【当院の研究責任者】

(研究機関名) (研究責任者の所属・氏名)

大阪国際がんセンター 血液内科 藤 重夫

【研究組織】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

施設担当者 施設・診療科名

荒 隆英 北海道大学病院 血液内科

大西 康 東北大学病院 血液内科

勝岡 優奈 国立病院機構仙台医療センター 血液内科

神田 善伸 自治医科大学附属さいたま医療センター 血液科

堺田 恵美子 千葉大学医学部附属病院 血液内科

奈良 美保 秋田大学医学部附属病院輸血細胞治療・移植再生医療センター

福島 健太郎 大阪大学 血液・腫瘍内科学

寺倉 精太郎 名古屋大学医学部附属病院 血液内科

田代 晴子 帝京大学医学部附属病院

池田 宇次 静岡県立静岡がんセンター 血液・幹細胞移植科

諫田 淳也 京都大学医学部附属病院 血液内科

烏野 隆博 りんくう総合医療センター 血液内科

松岡 賢市 岡山大学 血液・腫瘍内科

徳永 雅仁 今村総合病院

吉満 誠	鹿児島大学病院	血液・膠原病内科
森内 幸美	佐世保市総合医療センター	血液内科
神田 善伸	自治医科大学附属病院	血液科
緒方 正男	大分大学医学部	血液内科
河北 敏郎	国立病院機構熊本医療センター	
太田 秀一	社会医療法人北楡会	札幌北楡病院
衛藤 徹也	浜の町病院	血液内科
渡邊 光正	兵庫県立尼崎総合医療センター	
角南 一貴	国立病院機構岡山医療センター	血液内科
田中 正嗣	神奈川県立がんセンター	血液・腫瘍内科
中邑 幸伸	山口大学医学部附属病院	第三内科
高山 信之	杏林大学医学部付属病院	血液内科
遠藤 慎也	熊本大学病院	血液内科
崔 日承	独立行政法人国立病院機構九州がんセンター	血液・細胞治療科
糸永 英弘	長崎大学病院	血液内科
小野田 昌弘	千葉市立青葉病院	血液内科
赤坂 尚司	天理よろづ相談所病院	血液内科
高橋 勉	島根大学医学部附属病院	血液内科
狩俣 かおり	ハートライフ病院	血液内科
花本 仁	近畿大学奈良病院	血液内科
大渡 五月	鹿児島医療センター	血液内科
森 康雄	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
小宅 達郎	岩手医科大学	血液腫瘍内科
梅澤 佳央	東京医科歯科大学病院	血液内科
北野 俊行	公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院	血液内科
堤 豊	市立函館病院	血液内科
但馬 史人	国立病院機構米子医療センター	血液腫瘍内科
澤 正史	安城更生病院	血液・腫瘍内科
上田 恭典	倉敷中央病院	血液内科

近藤 忠一	神戸市立医療センター中央市民病院	血液内科
鬼塚 真仁	東海大学医学部	血液腫瘍内科
高瀬 謙	九州医療センター	血液内科
福田 隆浩	国立がん研究センター中央病院	造血幹細胞移植科
西田 徹也	日赤愛知医療センター名古屋第一病院	
小宅 達郎	岩手医科大学附属病院	血液腫瘍内科
萩原 真紀	横浜市立大学附属病院	血液リウマチ感染症内科
堤 豊	市立函館病院	血液内科
横山 洋紀	東京慈恵会医科大学	腫瘍・血液内科
高橋 勉	島根大学医学部附属病院	血液内科
伊藤 満	京都市立病院	血液内科
服部 憲路	昭和大学病院	血液内科
佐伯 恭昌	愛媛県立中央病院	血液内科
吉本 五一	佐賀県医療センター好生館	
南口 仁志	滋賀医科大学医学部附属病院	無菌治療部／血液内科
飯田 真介	名古屋市立大学大学院医学研究科	血液・腫瘍内科学
森島 聡子	琉球大学病院	第二内科
柴田 悠平	岐阜市民病院	血液内科
伊野 和子	三重大学医学部附属病院	血液内科
兼村 信宏	岐阜大学医学部附属病院	血液・感染症内科
倉橋 信悟	豊橋市民病院	血液・腫瘍内科
牧山 純也	佐世保市総合医療センター	血液内科
木村 文彦	防衛医科大学校病院	血液内科
河野 徳明	県立宮崎病院	内科
中前 博久	大阪公立大学医学部附属病院	血液内科・造血細胞移植科
上村 智彦	原三信病院	血液内科

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や生年月日など、患者さんを直接特定できる個人情報を特定の個人を識別することができないよう加工します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

本研究の二次調査のデータ収集/管理に関しては、日本造血・免疫細胞療法学会（JSTCT）から日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）への業務委託費により賄われます。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

大阪国際がんセンター 血液内科 藤 重夫
〒541-8567 大阪府中央区大手前 3-1-69
TEL：06-6945-1181